

お店屋あそび

—誘導保育の一案—

附屬幼稚園 小島 そのの

夏休みも過ぎ、第二保育期にはいつたばかりの頃、お庭の、あの雑草の中で、幼い子供達にまじりましては何よりもの蟲まじりが盛に行はれて居りましたが、一方、私達年少組では、やはり同じ雑草の中で、毎日の様にお店ごっこが繰りかへされて居りました。女兒によりましてままごこのお家がはじめられます。忽ち數人は八百屋さんのお店を開いて、このお家に賣りに参ります。丈の高い草の間に交つて咲いてゐる小さな花を、いくつかきれいな束にして賣りはじめます。こうしてお花屋さんも出來ました。或は、お砂のおまんじゆうの上に色まじりの花瓣や葉をちらして、お菓子屋さんもはじめられました。この様にして、手近に容易く得られる草によりまして、種々のお店が、開か

れました。或時は、これらのものが、小さい兵隊さん—男兒達の兵糧にもなりました。戦争に出かける前等には、このお店も、皆賣切れになる事もありました。ままごこでは、これらのものは、勿論主な御馳走として用ひられますが、まだその他に、お母様のおみやげにもなりますし、又お客様に参ります時等にはきつき、お花屋さんのお店に、立寄つて、おみやげを求めて参ります。お店は、ジャンゲルジムの中に、お砂場の縁に、或はお山の芝の上等で、少しもお店らしいものとして開かれては居りませんが、これらの遊びが、あの子供達の間には、本當に面白くつゞけられて参りました。

この、ままごこを中心として出來ていつたお店ごっこを、

このまゝお部屋の中にこり入れてみましたところ、「僕はおもちや屋さんになりたいな」、「僕はお菓子屋だ」、「私はお魚屋さんがいゝわ」、「私はお花屋さんになるわ」、と計らずも、こちらの計畫は一致したお店が、いくつか持ち出されました。そこで三十人が、七八人づゝ四つのグループに分れました。早速それ々のお店のものを作りはじめました。

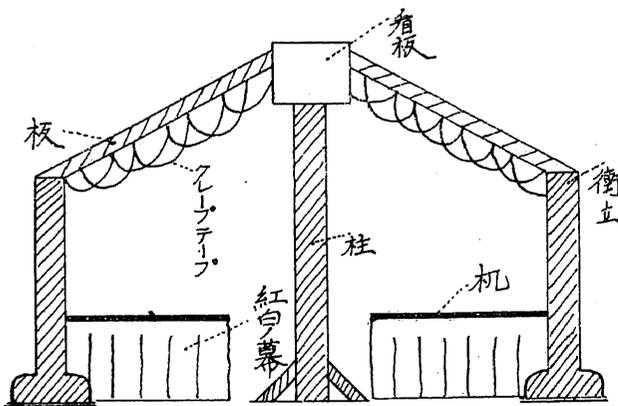
先づ最初に、簡単なお店を作りました。それには幼児の手によつてそれ々のお店の名のかゝれた看板をかけておきました。それからいふものは、毎朝お部屋に入ります、先づお店の中に入つて、自分の持ち場でも考へて居ります様にそれ々のお店の前に行つて、未だ何々を作らなければならぬか、こんなに足のたりない蛸はない等、すつかりそのお店の主人氣取りの者も御座いました。作られたものはきつみ、毎日賣つたり買つたり致しまして、これをお店屋ごっこして動かして居りますので、はじめの頃は、まゝごっこがはじまります必ずお店は賣切れてしまひました。夏休み後のお庭一面に生ひ茂つた雑草の中で、はじめられたこのお店屋さんも、いつしか雑草も

枯れ果てたこの頃では、すつかり變つた品物におきかへられて、毎日の面白い遊びをしてつゞけられて居ります。よく參觀に見えられた御方から「こんなに綺麗に出来たお店のものを、お家を持つてゆきたいと申しませんか、私共では何でも持つて歸りたがつて」、といふお言葉をうかゞひますが、このお店は綺麗に飾つておくものでも製作品の陳列でもないであります、作つたものをそばから動かして、子供達は毎日お店ごっこして活用して居るので御座いますから、その品物の一つづゝを家へ持つて歸りたい等いふ事は恐らく誰も考へてゐない事で御座いませう。このお店屋さんも、作つたものは大切にしまつておいて、賣出しの日にはこれを綺麗に飾つて賣るまいふ様な方法をとりましたなら、子供達は、たつた一日しかこれを用ひる事が出来ませんので、或は意味のないものになりますかも知れませんが、私共のはそれとは全く別で、毎日作つて毎日それを動かして居るので御座います。或時等は、おまゝごっこからクリスマスごっこになりました、何を考へましたのか男兒はサンタクロースになつて、すやくゝ寝てゐる女兒達の

枕もきに玩具を山のように積んでゆきます、この玩具はお店から持ち出して用いたのであります、このお店屋さんからこの様な遊びを思いついたらしく、それから後このクリスマスごつごついふものが私共の組では、つゞけられる様になりました。この時は殆んどお店の品物は全部賣切れまして、その上ずる分こわされてしまひますが、その遊びの後ではすぐに又、これらのものを各自、糊ではりつけたりして、いろいろ工夫して修繕致します、そしてお歸りには又もこのお店に戻してゆきます。この様な事が毎日くりかへされまして、殊に雨の日等は、お部屋の中で組全體の子供が一日中このお店を中心として面白く過されます。こうして今では何かにつけまして無くてはならないお店屋さんになつてしまひました。

次にこのお店遊びのお店の品物の一つ一つにつきまして、いくつかのものゝ作り方を述べさせていただきます。今回は、おもちゃ屋さん、お花屋さんのお店について申し上げます。

一、お店の作り方



先づ第一に作らなければなりませんものはお店で御座いますが、これは手をかけ様と思へばぎの様にでも立派に作る事は出来ませんが、この様なところに、澤山の費用や手数をかけますのもいかゞか考へられます。幼稚園にあり合

せのものを用ひまして、頑丈にそして、成可く綺麗に工夫して作りましたならそれで結構ではないかと思はれます。この度は極めて簡単にそして綺麗に作るには考へまして次の様なものを考へてみました。

圖の様に衝立を二間位の間隔に二ヶ所に置き、中にお机二個と砂箱一個(或はお机二個)を置きまして、このお机と砂箱の間及び後の方を子供が自由に通れる程度にあけておきました。次に二個の衝立の中間に角一寸高さ七尺位の柱を立てました。(この柱は紅白の布或は紙テープを巻きます。一層目立ちます)、これを立てるには餘程注意して頑丈なものでなければなりませんので、下の方には鋸を打たねばなりません。この柱から左右の衝立に幅一寸位の薄い板(これも紅白のテープで巻いたもの)を渡し、その下を緑と白のクレープのテープで裝飾をいたしました。このクレープのテープは切つたものを裝飾屋で賣つて居りますが、自分で普通のクレープペーパーをいくつにか折り重ねて、裁斷機で切りそれを糊で長くつなぎ合せましても出来ます。これは割合にお安くて(二色、七錢位)きれいなので、これを用ひてみました。又お机の周圍には脚の見えませんが、紅白の幕でかこみました。この紅白の幕一つによりまして非常にお店が引たちますが、少しお値段がかかりまして、尺七錢のナフトルでも五尺つゝ位を要するのでこれは

無くてもすむかき存じます。最後に子供の手で作られた看板をかけたまして、これですつかりお店は出来上りました。これはほんの一例にすぎませんのでもしや何かの御参考にでもなりましたならばき存じまして、述べさせて戴きました。

二、玩具屋さん

1、自動車

材料、畫用紙の厚いもの。(四つ切のもの一枚にて一臺。或はボール紙。この場合は塗料としてエナメルを要します。

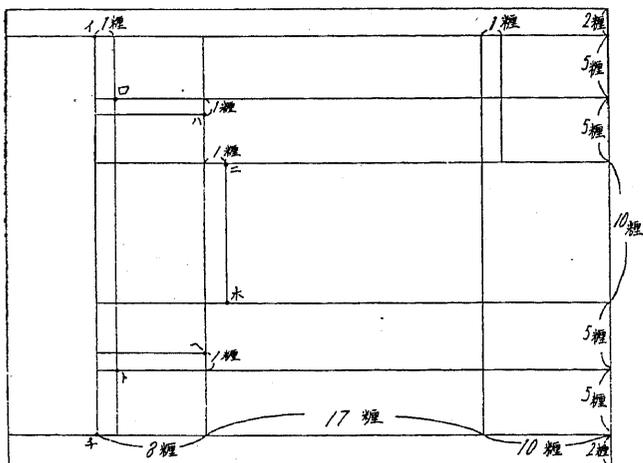
作り方、先づ第一圖の如く線を引きます。

これは四つ切一枚の畫用紙としての寸法ですから、もつみ大きく又は小さくする場合は、この寸法の割合で擴大又は縮小いたします。

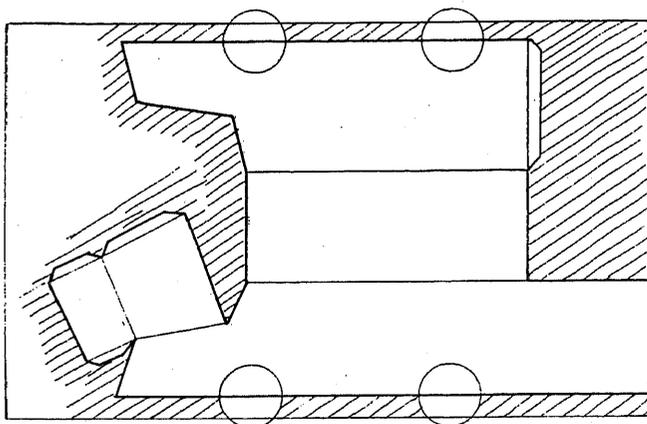
第一圖の様な線が引けましたなら忘れずに、イロハニ、及びホヘトチを點線でむすびつけておきます。

次は第二圖の如く、必要の線のみを太く残し、他は消してしまひます。そして、半徑二種の車輪を適宜の位置にかきます。未だこれだけでは不完全な形ですから、次に第三

第一圖



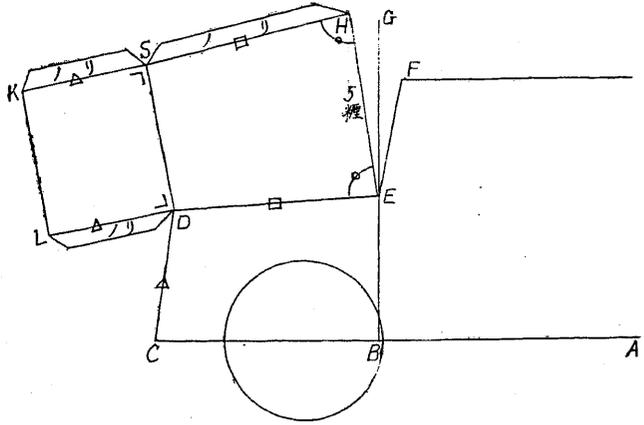
第二圖



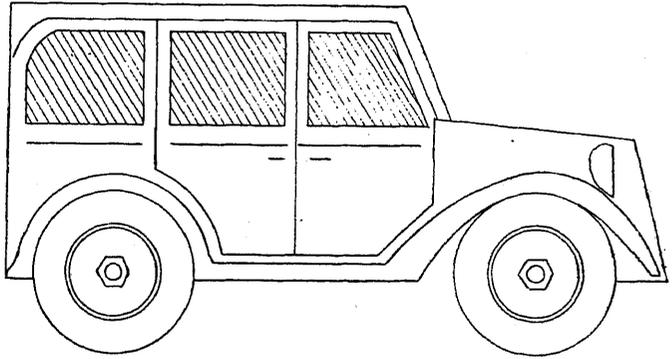
圖の様に自動車の前部の形をかきます。これは少し複雑して居りますが、この形によつて、ずつと、よい形の自動車になります。

EよりHに屋根の幅と同じ長さ即ち十種の長さの線を引きます。この場合HEDのなす角は約八十度位にします。次は角HEDに等しく角SHEをこつてEDに等しい長さをHSこします。そしてSDをむすびつけます。次は角SDLが直角になります様に、そしてDCの長さに等しくDLを引きます。そしてやはり角DSKも直角になる様にSKを引きKMをむすびつけます、そしてそれぞれのり代を圖の如くつけておきます。これで全部形はこれしたので、第四圖の如くドア、窓等をかき、色をぬ

第三圖



第四圖



ります。そしてのりではり合せて、作り上げます。出来上りは、この自動車は前の方即ち第三圖のEDの線のところから折り返す事を忘れない様にしなければなりません。

先づ第一圖の様な寸法の圖をかきます。これはもつゝ大きく作る場合はこの割合で擴大いたします。(便宜上畫用紙の場合の寸法でいたしました)が、もつゝ大きい方がよろし

この自動車に次に申し上げます電気機關車は私の考へによりまして作つてみましたものですので、随分缺點が多い事存じます。ごうぞ皆様の御批判をお願いいたします。

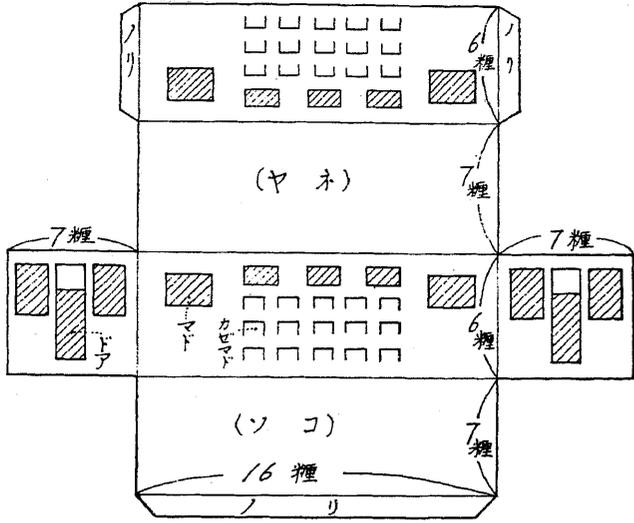
2、電気機關車

材料、畫用紙の厚いもの、或ボール紙又は黒ラシヤ紙、ボール紙の時は塗料は黒のエンメルを用ひ、ラシヤ紙の場合には黄又は白のクレオン又は繪の具にて各部分をかきます。

作り方

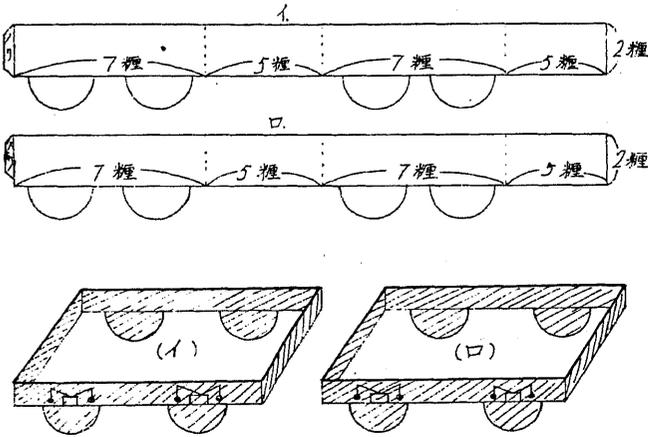
1、ボディ(車體)第一圖

第一圖 (車體)



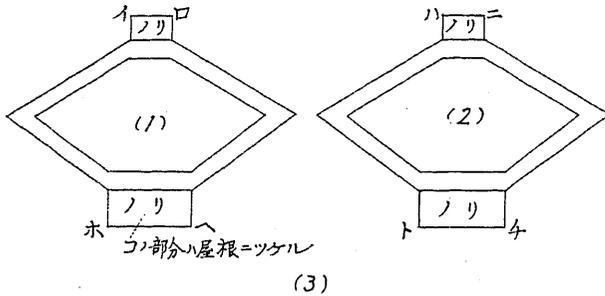
いさ存じます。側面及び前ミ後に任意の窓、ドア風窓、等をかきます。これは、子供にかゝせまします。各自の観察によりまして面白いものが出来上ります。此繪がかけましたら、線を折り、糊をつけて、開いた箇所のない四角な箱に作り

第二圖 (臺車)

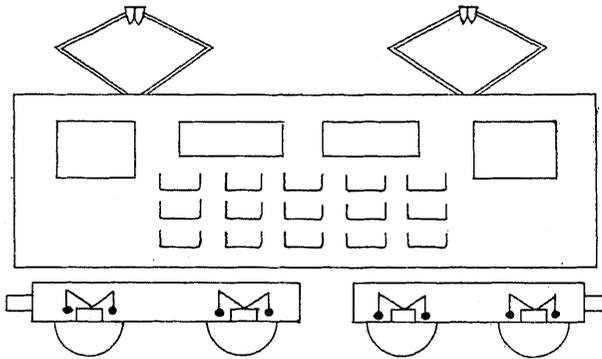


ます、之で車體が出来上りました。
 ロ、トラック(臺車)第二圖
 第二圖の如く、二つの細長いものに車を四つつけて、そ

第三圖 (パンタグラフ)



第四圖 (出来上り圖)



れく糊ではり合せて、イ、ロ、は(イ)、(ロ)の二つの同じ大
きさの框に作ります。

次にこの二つの臺車を車體につけますには、別に細長い
紙をそれくの框の中央にはりつけ、それに糊をつけて車

體の底につけます、この臺車は車體よりいくらか内側につ
くこになりませう。

ハ、パンタグラフ第三圖

これは任意の大きさのものを第三圖の(1)如く四つかけ、

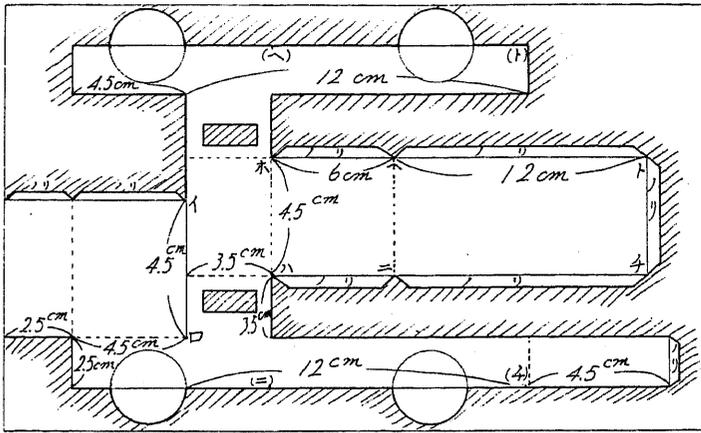
(3)の如きものを二つかけます。圖
の(1)のイロにのりをつけ(3)のイロ
もつけ合せ、圖の(2)のハニにのり
をつけ(3)のハニもつけ合せ、これ
で一つのパンタグラフが出来まし
た。圖の(1)のホへ及び(2)のトチは
何れも車體の屋根につけます。こ
の様なパンタグラフを二つ作れば
よいのであります。

これで車體、臺車、パンタグラ
フが出来ましたから、それくこ
れをつけ合せて一臺の電気機關車
が出来ました。(第四圖参照)

3. 貨物自動車

材料、畫用紙厚いもの八つ切

貨物自動車



一枚で一臺
作り方
八つ切の畫用紙に圖の様な寸法でかきまして、線の通り

に切りぬきます。イ、ロのところは鉄を入れ切りこみます、次に窓を切りぬき、随意に色をつけます。點線の箇所をしっかりと折つて、糊代のところに糊をつけてはり合せます、この時、ホへはホ(へ)につけ、ハニは(ハ)ニにつけ、ヘトは(ヘ)トに、ニチは(ニ)チにつけ合せます。

これで電気機關車、自動車、貨物自動車の三つの乗物が出来ました。これ等は玩具屋にある玩具として考へたもので御座いますが、皆様御覽になりましたなら、何れも定めし缺點の多いものも存じます、さうぞ皆様の御批判を御願ひ申上げます。まだ玩具屋の乗物も致しまして、電車、飛行機、船等がございますが一先づ乗物はこの位にとどめておきまして次にうつる事に致します。

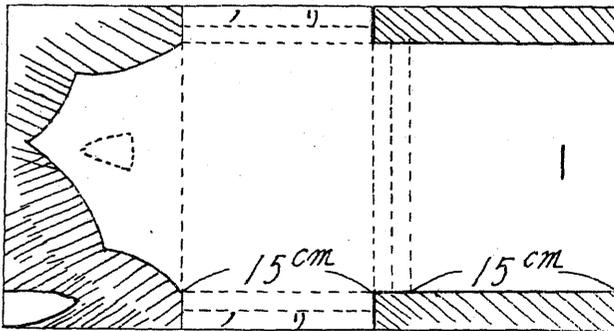
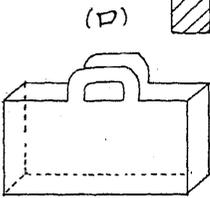
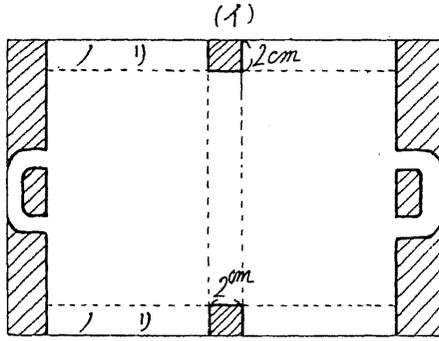
4、鞆(手提)(二)

材料、八つ切畫用紙

作り方

(1)圖の如く八つ切畫用紙に一ぱいの大きさの形をかきまして、底の幅及び横の幅は等しくなります。次に切り紙によつて繪を貼らせたり或は色を綺麗に配合して模様をつけたら致します、之は子供の自由に任せます多種々の變つたも

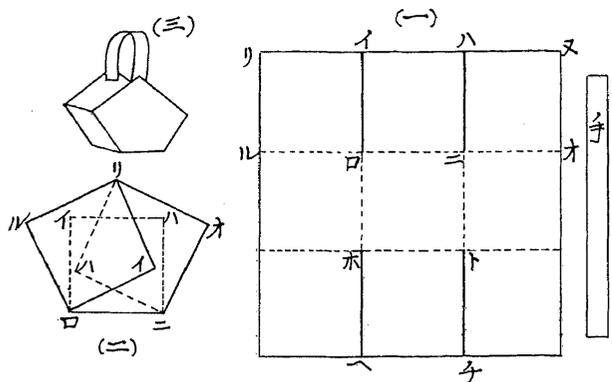
のが出来上ります。次に線の箇所を切らせます、持つところの内の部分は、鉄を入れてあたへません、子供には切れません。切れましたら糊をつけて側面をはり合えます、これで簡単な手提が出来ます。色をぬります場合は、側面及び持つところにもぬります、綺麗に出来ますか、存じます。



5. カバン(二)
材料、色のついたラシヤ紙
作り方
任意の大きさの紙を三つに折つて、

中の一つ蓋になる部分(上圖左端ノ部)は随意の形を作り、随意の様な線を引き、点線の部分を折ります、底の部分は中央の点線を折り、両端の線は中央に反対に折ります、次に両側面をのりではり合えます、次に、平たいカバンが出来ます。次は蓋の部分に同じ紙で爪を作つてつけます。蓋の部分

には子供が切り紙をして、模様を作ります。このカバンは着せ替へ人形の洋服入れ等によいもので御座います。蓋の部の形は圖に示しましたものは一例ですので、この他チュールリップ、櫻等の花瓣の形にしても面白いのが出来ます。



6、バスケット

材料 畫用紙八

つ切

作り方

圖の様に畫用紙を正方形に切つて各邊を三等分して、それ々々結び合はせます。次に、イロ、ハニ、及びホへ、トチ、に切り込みを入れまして、點線の箇所を折ります、次は別に細

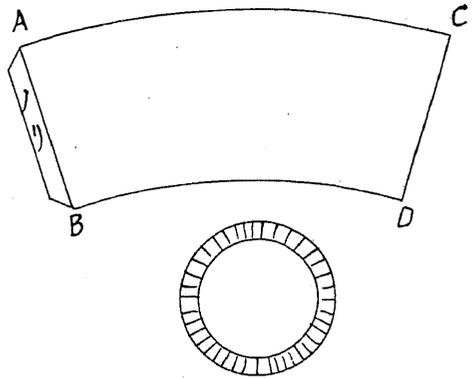
長く手を切つておきます、そして、(二)圖の様に重ね合はせてはりつけまして、それに手をつけます。これは子供の手で切り紙をしても綺麗なバスケットになります。が橙色の繪の具で籠の目をかきます。大さう感じの軟いものが出来ます。

7、バケツ

材料、畫用紙の厚いもの又は水色のラシヤ紙

作り方

畫用紙を用ひる場合は豫め青いインクを塗つておきます。先づ圖の様な扇形をかきます。この扇形は或一點を中心點とし、そこから任意の半徑で弧ACをかき、次は同じ中心點から弧BDをかきます。中心點をA點を結び其線が弧BDと交つた點をBとし、中心點をC點を結び、それが弧BDと交つた點をDとします。この扇形が出来ましたなら、弧BDと同じ長さの圓形、弧の長さの七分の二十一を直徑とせし圓をかきこれをバケツの底といたします。この圓形にはのり代をつけそこに鉄をこまかく入れておきます、次はこの扇形に幼児の手によつて切り紙をなしてABとCDとをつけ合せ、それに底をつけまます。これはなかく糊がつかません場合は針と糸でつけまます、しつかりしたものが



出来ます。これに手をつけまして、バケツが出来上りました。

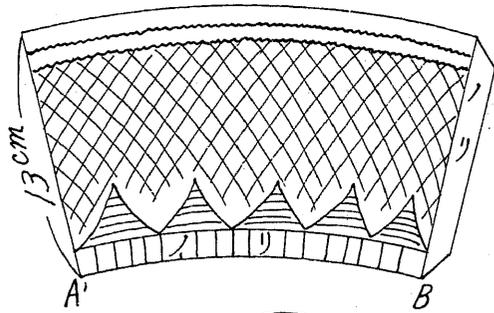
玩具屋さんの材料をいたしましては、この他澤山ございます。例へば提灯、風車、羽子板、凧、こま、お面、獅、ふらく人形、犬猫の袋は恰好のものも存じます。これ等はすでに皆様よく御承知のもので御座いますので、此の度は省かせていただきます。次はお花屋さんのお店のものにつきまして少しばかり述べさせていただきます。

三 お花屋

1. 籠のお花

材料、畫用紙又は黄色のラシヤ紙
作り方

次の頁の圖の如く扇形を作ります。この扇形のかき方は、前に玩具屋のバケツのところで申上げました通りで御座います。この扇形は下の部分一穂位をのり代にしまして、缺をこまかく入れておきます、そしてこの扇形に橙色の繪の具にて圖の様に任意の籠の目をかきまします。この繪の具は、泥繪具が結構で御座います、橙色で致しますと、他の色よりも大さう軟い感が出ます。次に底は弧ABを圓周とする圓よりも大きなものをかきまして、やはり一寸した籠の目をかいておきます。次は、上の筒と底をつけ合せて籠が出来ました。この時筒の糊代は外側に出して折ります。この籠に花をつけまします。花は、色のラシヤ紙又は畫用紙に子供の任意のお花をかきせまして、それを切りぬいてはりつけまします。可愛いお花が澤山籠のまはりにつきますと奇麗な花籠になります。このお花もはじめの頃は皆、形が簡單



な爲かチューリップばかりでありましたが、後には皆それと違つたものを考へまして、朝顔や風船かづら等作り出した事も御座いまして、皆非常にお花に對して注意して見る様になつて参りました。

2、クレープペーパーのお花

材料、クレープペーパー
作り方

これは少々子供にはむづかしいもので御座いますし、又費用がかゝりますのでいかゞかま存じますが、御参考までに述べさせていただきます。

先づクレープペーパーを任意の大きさの花弁の形に切つたものを二枚、つづはり合せて一枚の花弁さして作つておきます、次に葉の形を切り、中に針金を入れ、二枚はり合せたものを一枚の葉にいたします。次に長い針金で、黄色いクレープ四纏位の長さに切り先を細く切り込むでおいたものの元の所を結んで残りを莖の心にしておきます。黄色いクレープの周圍に花瓣をつけ糸で結び、細長く横に切つた緑色のクレープで莖を巻いてゆきます。そして適宜の箇所葉をつけ、葉の針金も莖の針金と一しよにして巻きます。これでクレープでお花が出来ました。何のお花でも、花瓣と葉の形だけを変へましたならこの方法で作る事が出来ます。以上長々申し上げて見ました。御参考にもなれば幸甚存じます。